



母乳育児支援スタンダード

染谷啓子 助産師

母乳育児支援にかかわるすべての方にぜひ熟読をすすめたい本が出版された。『母乳育児支援スタンダード』である。本書には、日本で母乳育児支援を実践している国際認定ラクテーション・コンサルタント (IBCLC) が全項目を執筆している、WHO/UNICEF の“母乳育児成功のための10か条”と“母乳代用品のマーケティングに関する国際規準”(以下、国際規準)に基づいた支援内容が、具体的に、かつ科学的根拠に基づいてまとめられている。

概論では、世界的な母乳育児支援の動向や歴史、国際規準が成立するまでの経緯やその意義などが詳述されている。各論で

は、支援の実践にはエモーショナル・サポートがいかに大切であるかや、母乳が母親や児、社会に与える利点、乳汁分泌のメカニズムを理解するのに必要な解剖・生理、乳汁の生化学など、必須で基本的な知識が満載されている。

第5章 出産直後の母乳育児支援の項では、早期接触の意義と支援の実際や、母乳育児支援における重要な技術であるポジショニングとラッチ・オン、現場で判断に戸惑うことが多いと思われる黄疸や低血糖などについて紹介されている。さらに、直接授乳困難、乳頭痛、帝王切開、母子分離、多胎といった特別な支援を必要とするさまざまなケースに合わせた支援方法や、補完食(いわゆる離乳食)、卒乳まで、幅広く網羅されている。

エビデンスに基づいた母乳育児支援テキストの決定版



NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会 ■
定価 4,200 円(本体 4,000 円 + 税 5%)
B 5 判 / 医学書院 / 2007 年

私が助産師になった19年前頃は、いわゆる「乳房管理」が母乳育児支援に必須と考えられていた時代で、「助産師による乳房マッサージ」が支援の主要な部分となっていた。さらに、その方法論は1つではなく、情報も互いに矛盾しているものもあった。

一方で助産師は、思うように母乳育児がうまくできない母親の気持ちを、上手に汲み取れないことに対してジレンマを感じていた。当時母乳育児支援には基準がなく、その裏づけを知る術が少なかったため、支援方法に対する混乱と知識の模索が続いてきた。支援方法を先輩諸師から学びながらも、その支援

は何が正確で何が根拠なのかを知るために、さまざまな書物を読んだり研修を受け、臨床の場で試してみることの繰り返しだった。

本書を手にすることで、それらの疑問は解消された。援助者が何かを“してあげること”が一番大事なのではなく、母親自身が自ら学びセルフケアを体得できるような支援や環境整備が大切であることがわかった。また、自分自身のためにも系統だてた知識の再確認が行なえた。

本書は、母親や子どもにかかわる助産師や保健医療従事者をめざす学生、とくに助産師学生には必携の書と言えよう。ぜひ、座右の書として活用していただきたい。